

## 経路別予防策と（個人防護具）PPEについて

7月以降、暑い日が続いています。体調変化はありませんか？全国や北海道ではCOVID-19陽性患者が増加、釧路では減少していますが、別の感染症が流行中です。COVID-19パンデミック以降、PPEの着用が時に過剰になっている場合があるように感じていました。そこで今回は経路別予防策とPPEについて取り上げます。

### 経路別予防策とは？

おさらいですが、標準予防策に加えて感染症が判明している患者または疑いのある患者に対して実施するのが経路別予防策です。

空気感染、飛沫感染、接触感染対策では必要となるPPEも変わってきます。



#### 空気感染

主な疾患；はしか、水ぼうそう、結核  
空気感染で必要な防護具  
**N95マスク**



#### 飛沫感染

主な疾患；百日咳、インフルエンザ、  
マイコプラズマ肺炎  
COVID-19、溶連菌感染症、  
風疹、おたふく  
飛沫感染で必要な防護具  
**サージカルマスク**

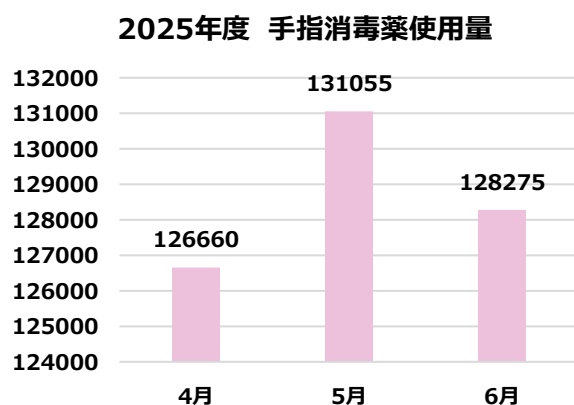
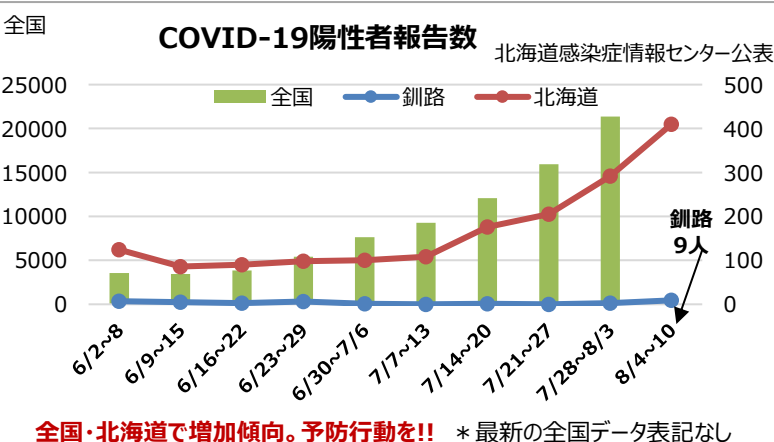


#### 接触感染

主な疾患；ESBL、MRSA、CREなどの  
薬剤耐性菌、COVID-19、  
CD、ノロウイルス感染症、  
流行性角結膜炎、プール熱  
腸管出血性大腸菌感染症  
接触感染で必要な防護具  
**手袋、エプロンまたはガウン、ゴーグル**



昨年12月に、ICCニュースで標準予防策と経路別予防策について取り上げ、PPEの表もお示しました。昨年以降、この5年間にあまり流行しなかった感染症、例えばりんご病や百日咳、プール熱などが流行しています。当院は小児科はありませんが、成人でもりんご病や百日咳、マイコプラズマ肺炎などの患者が入院する可能性もあります。呼吸器感染症では飛沫感染対策としてサージカルマスクの着用が必要ですが、フルPPEで対応していたり（過剰着用）、逆に接触感染対策が必要な患者にエプロンやゴーグル等のPPE着用が不足していることが散見されています。特に耐性菌検出患者では全員が個室へ入室できるわけではありませんが、検出している部位のみ対策を行えばよいというわけではありません。どの疾患ではどのような対策が必要か、理解した上で必要なPPEを選択し使用して下さい。



### 感染症対策のお願い

発熱などの有症状時は直接受診することは控え、病院へ連絡してから来院して下さい。当院への受診の際は必ず、マスク着用をお願いします。また、受診時の付き添いの方は1名までとさせていただきます。面会は個々の患者さんの状態に応じて対応しています。陽性の方は症状悪化した場合等は診断を受けた医療機関へご相談下さい。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

